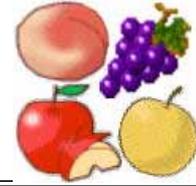


平成22年度 果樹情報 第5号

(平成22年5月20日)



福島県農林水産部研究技術室

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所）における主要果樹の満開は、平年に比べてモモで4日、ナシで8日、リンゴで3～5日遅れました。今後は、予備摘果などの着果管理作業が中心となりますが、適期作業により果実や新梢の初期生育を確保しましょう。また、この時期は凍霜害の危険性が高いので、気象情報に注意するとともに防霜対策を徹底してください。

1 気象概況（5月1～3半旬）

5月1～3半旬の平均気温は、1半旬が17.2 で平年より3.1 高く、2半旬が16.9 で平年より1.7 高く、3半旬が11.9 で平年より4.1 低く経過しました。

この期間の降水量は43.2mmで平年の91%でした。

表1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
5	1	17.2	14.2	+3.1	25.3	20.3	+5.0	8.4	8.3	+0.0	0.0	13.6	0.0
	2	16.9	15.2	+1.7	22.9	21.8	+1.1	10.4	9.0	+1.5	12.0	15.1	79.5
	3	11.9	16.0	-4.1	15.9	22.1	-6.2	7.5	10.2	-2.7	31.2	19.0	164.2
	4		16.3			22.3			10.4			14.6	
	5		16.9			23.1			11.0			13.1	
	6		18.0			24.2			12.1			13.8	

東北地方1か月予報（仙台管区气象台 平成22年5月14発表 要約）

向こう1か月の天気は数日の周期で変わる見込みです。また、今後の気温経過は、1週目（5月15日～21日）の気温は高い確率が60%、2週目（5月22日～28日）および3～4週目（5月29日～6月11日）は平年並の確率が40%となっています。

2 土壌の水分状況（5月16日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培リンゴ園）は、深さ20cmが1.9、深さ40cmが1.7、深さ60cmが1.8で、適湿条件の範囲です。

3 発育状況（果樹研究所）

(1) モモ

「あかつき」の満開は4月25日、「ゆうぞら」の満開は4月26日で平年より4日遅れました。また、果樹研究所における「あかつき」の硬核期開始は6月15日頃で、平年より3日遅いと予測されています。

(2) ナシ

「幸水」の満開は5月5日、「豊水」の満開は5月2日で平年より8日遅れました。

(3) リンゴ

「つがる」の満開は5月6日で平年より5日遅く、「ふじ」の満開は5月5日で平年より3日遅れました。

(4) オウトウ

「佐藤錦」の満開は5月3日で平年より9日遅れました。

(5) ブドウ

「巨峰」の展葉は5月3日で平年より9日遅れました。今後の気温が平年並みに経過した場合、果樹研究所における「巨峰」の開花始めは6月11日頃で平年より5日遅いと予測されます。

表2 開花状況 (果樹研究所)

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	4月18日	4月16日	4月9日	4月25日	4月21日	4月15日
	ゆうぞら	4月19日	4月17日	4月10日	4月26日	4月22日	4月14日
ナシ	幸水	4月29日	4月23日	4月18日	5月5日	4月27日	4月24日
	豊水	4月25日	4月19日	4月14日	5月2日	4月24日	4月21日
リンゴ	つがる	5月4日	4月26日	4月24日	5月6日	5月1日	5月1日
	ふじ	5月3日	4月27日	4月22日	5月5日	5月2日	4月30日
オウトウ	佐藤錦	4月29日	4月19日	4月14日	5月3日	4月24日	4月23日

表3 発芽・展葉状況 (果樹研究所)

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ブドウ	巨峰	4月20日	4月19日	4月14日	5月3日	4月24日	4月19日

表4 ブドウの開花予測 (5月17日現在) (果樹研究所)

品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日			
	昨年	平年	平年並み	2 高い	2 低い	
巨峰	6月2日	6月6日	6月11日	6月8日	6月16日	

注) 発育速度(DVR)モデルによる発育予測。平年は1988~2005年の平均。

4 栽培上の留意点

(1) 凍霜害対策

モモ、ナシ、リンゴなどでは幼果期を迎えていますが、凍霜害の危険性はまだ残されているので、引き続き気象情報に注意し、防霜対策を徹底してください。特に、ブドウやカキでは新梢伸長期に凍霜害を受けると、花器だけでなく新梢も障害を受けるため、十分注意してください。

(2) モモ

ア 予備摘果

予備摘果は満開後15~20日頃から(花粉のない品種は果実肥大に差がつく満開後20日頃から)実施します。摘らい・摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱かった場合は、必ず予備摘果を実施しましょう。なお、凍霜害や低温の影響により結実が劣り、着果量が不足する場合は、果実の形質が明らかになるまで摘果を遅らせてください。

イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年の硬核期開始は6月15日頃(平年より3日遅い:果樹研究所)と予想されるので、仕上げ摘果はこの頃までを目安に実施しましょう。

ウ 樹勢回復対策

新梢伸長が劣り、葉色が淡いなど樹勢低下がみられる園では、早期の摘果により着果量を制限するとともに、5月中を目安に、速効性肥料による追肥(チッ素成分で2kg/10a程度)、または窒素成分を含む葉面散布用肥料による葉面散布を実施します。

エ 新梢管理

5月下旬~6月中旬は新梢生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内の枝葉が混雑しやすくなります。主枝、亜主枝の基部や側枝の基部など樹冠内部の徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、樹体の健全育成に心がけましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか、最小限とします。

(3) リンゴ

ア 予備摘果

落花後7~10日を経過すると実止まりが確認できるので、確認でき次第予備摘果を開始し、

満開後30日以内に実施してください。結実良好な園では、予備摘果で長果枝や葉の少ない果そう及び肥大の悪い果そうの果実は全摘果を実施し、着果負荷の軽減を図りましょう。また、えき芽果の着生が多い園地では、早めに摘除しましょう。

凍霜害の影響により、幼果に毛茸の脱落等の症状が認められる場合は、果面のサビやヒビの発生の原因となるので、できるだけ症状の軽い果実を選んで残しましょう。

イ 樹勢回復対策

樹勢の低下が認められる樹は早急に予備摘果を実施し、樹勢に応じた着果量として樹勢の回復を図りましょう。

(4) ナシ

ア 予備摘果

予備摘果は、満開後30日までに実施してください。本年は、果実の生育にバラツキが認められるため、果実の形質を良く確認しながら作業を進めましょう。

イ 新梢管理(芽かき)

予備摘果と併せて実施してください。主枝や亜主枝の背面から発生する新梢は基部葉2~3枚を残してせん除します。不定芽から発生した新梢が混み合っている場合は、芽かきで2~3本に整理するなど、適度な間引きを行います。また、予備枝は風による新梢折損の恐れがなくなったら先端新梢を一本に整理します。

ウ 土壌の水管理

この時期の土壌が乾燥していると、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水により土壌水分を確保しましょう。

エ 樹勢回復対策

平年より新梢伸長が劣り、葉色が淡い等樹勢低下が見られる園では、早期の摘果により着果量を制限するとともに、5月中を目安に速効性の肥料による追肥(チッ素成分で2kg/10a程度)、またはチッ素成分を含む葉面散布用肥料による葉面散布を実施します。

(5) ブドウ

ア 新梢管理

新梢が混み合っている部分や極端に強く花ぶるいの危険性が高い新梢、花穂を持たない弱い新梢の芽かきを行います。また、新梢が30~40cm程度伸びた頃から新梢誘引を行います。(「あづましずく」は新梢が硬く、基部から折れやすいので、無理に誘引せず時期を遅らせて行います。)

イ 摘穂・花穂整形

開花は平年より5日程度遅れる見込みですが、摘穂、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。

ウ かん水

土壌の乾燥が続くと新梢の初期生育が劣り、新梢伸長と花穂発育のバランスが崩れて花ぶるいや単為結果等を誘発することが心配されます。必要に応じてかん水を実施し、土壌水分の確保に努めてください。

(6) オウトウ

ア 着果管理

結実が確認でき次第、1花束状短果枝当たり3~4果(樹勢が適正な場合)を目安に摘果を実施します。なお、樹勢が強く新梢の生長が旺盛な側枝ではやや多めに、樹勢が弱い場合は少なめとし、葉数に応じた着果量としてください。

イ 雨よけ被覆・着色管理

生育は平年より遅れていますが、雨よけ被覆、着色管理などの管理作業は計画的に実施しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴうどんこ病

うどんこ病の一次発生叢率（「紅玉」：果樹研究所）は3.0%と平年並（平年：3.7%）でした（果樹研究所）。しかし、今後乾燥条件が続くと発生が多くなるおそれがあるので、発生叢が多い園では、罹病部位をせん除し処分するとともに、落花2週間後の防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病、灰星病

越冬伝染源である春型枝病斑は、平年よりやや多い状況です(病虫害防除所)。今後の気象条件によっては多発するおそれがあるので注意が必要です。枝病斑、葉や果実における発病部位、枯れ枝は伝染源となるため、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。また、5月中～下旬の防除を徹底しましょう。

ウ モモ灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、モモの成熟期における果実や他の核果類への伝染源となるので、見つけしだい適切に処分しましょう。

ウ ナシ黒星病

果叢基部病斑の発生（「幸水」無防除樹：果樹研究所）は3.2%と平年並（平年3.9%）ですが、これまでの気象条件を考慮すると今後の対策に十分注意が必要です。果叢基部病斑、罹病葉および罹病果は見つけしだい摘除するとともに、今後の防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア 主要鱗翅目害虫

主要な鱗翅目害虫の発生時期については、平年より遅れる見込みです。なお、越冬世代成虫の発生ピークは、モモハモグリガが5月2日、ナシヒメシンクイが5月4日でした。

イ モモハモグリガ

第2世代幼虫の防除適期は6月2～3半旬頃と予測されるので、この時期に合わせて防除を実施しましょう。

ウ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は5月6半旬頃と予測され、リンゴコカクモンハマキの発生もこれに準ずると予想されます。リンゴモンハマキ第1世代幼虫の防除適期は6月2～3半旬頃と予測されるので、この時期に合わせて防除を実施しましょう。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ越冬雌成虫の防除適期は、5月5～6半旬頃になると見込まれるので、ふ化幼虫の分散に合わせて防除を実施しましょう。また、クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより1～2半旬程度遅いため、防除時期に注意してください。

オ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山間及び山沿いのほ場ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、飛来が多い場合は速やかに防除を実施しましょう。

表5 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期 (5月16日現在)

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2 高い	5月24日	6月5日	6月5日	6月10日	6月18日	6月27日
平年並み	5月26日	6月8日	6月8日	6月14日	6月25日	7月5日
2 低い	5月29日	6月13日	6月13日	6月19日	7月5日	7月15日

注) 演算方法は、三角法による。起算日はリンゴモンハマキが3月1日、モモハモグリガが5月2日、ナシヒメシンクイが5月4日。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。